

パブリックコメント【第7次宇美町総合計画（素案）についてのご意見と宇美町の考え方】

	項目（公表）	意見要旨（公表）	町の考え方
1	【基本構想（案）P12.13】 町の将来像	町民憲章もそうですが、わかりやすく温かみがあって素晴らしいと思います。難しい言葉や流行を追いかけすぎず、まちの歴史や個性を生かして、「このまちが、いい」と選ばれるまちを目指していただきたいと思います。	第7次宇美町総合計画は、宇美町が将来目指す姿を示し、それを実現するためにどのような取組を行うかをまとめた計画です。総合計画に基づく取組を推進し、まちの歴史や「人と人のつながり」などの町の宝を活かしながら、「このまちが、いい。」と選ばれるまちづくりを行って参ります。
2	【前期実践計画（案）P28.29】 生涯にわたる学びの推進	オンライン等を活用しながらどこでも誰でも学びに参加できることが必要とあるように、宇美町で良い講座があったとしても若い働く世代は参加することができません。インターネットを活用した学びの機会があれば若い世代も参加しやすくなると思います。双方向のオンラインでなくても、配信を宇美町民に限って見られるということでもよいと思います。講師の方も地元宇美町の方だと身近に感じられて良いと思います。	「施策の方向性1 学びのメニューの充実とわかりやすい情報発信」において、オンラインを活用した学びの場（講座等）の推進に取り組みたいと考えております。町民の方のニーズの変化に対応し、オンラインを積極的に活用しながら、誰でも参加しやすい学びの場を提供して参ります。現在も宇美町内の方が講師の講座も実施しておりますので、引き続き、実施して参ります。
3	【前期実践計画（案）P38.39】 いつまでも健康でいきいきと暮らせるまちづくり	宇美町内の5小学校区で介護予防教室が実施されています。65歳以上の方についても、働いている方が多く、参加者がまだまだ少ない。また、介護予防教室の運営補助のサポーターも集まらない状況です。地域でのアピールも不足しており、町でも参加者が増えるような方法を検討願いたい。	「施策の方向性4 アクティブシニア活躍推進」において、介護予防教室の充実に取り組みたいと考えております。現在の介護予防教室の大きな特徴としては、地域と連携しながら実施していることです。今後の運営、特に参加者数やサポーター数等の課題についても、地域と連携を取りながら、改善に向けて検討して参ります。
4	【前期実践計画（案）P38.39】 いつまでも健康でいきいきと暮らせるまちづくり	福祉サポーターとして「介護予防教室」を担当しています。5年が経過し、初回から参加の高齢者が楽しく通っている姿をみると嬉しく思っています。しかし、増員することができないのは残念。高齢者の意識の問題か、教室の周知をしていないのか…？行政として、福祉と健康増進のためには、積極的にPRして欲しい…。教室の継続のためにも、サポーター養成に（研修内容を含めて）力を入れて欲しい。	「施策の方向性4 アクティブシニア活躍推進」において、介護予防教室の充実に取り組みたいと考えております。積極的な情報発信を行いながら、地域と連携し、より良い事業内容を検討して参ります。また、福祉サポーターの養成についても、定期的に研修を実施し、養成に取り組んで参ります。
5	【前期実践計画（案）P38.39】 いつまでも健康でいきいきと暮らせるまちづくり	小学校児童で高血糖児が30%位というが、これは家庭での食習慣に問題があるように思える。従ってPTA等でこの実情についての改善策を議論し、良い方法で考えるよう話し合いをしてみてもどうですか？	ご意見いただきましたとおり、生活習慣病の発症予防のためには、子どもの頃からの取組が必要であり、家庭での食習慣の改善が重要と考えております。「施策の方向性2 生活習慣病第一次予防に重点をおいたうみっ子健診」において、医療機関と連携した保健指導を実施して食習慣の改善にも取り組んで参ります。また、学校との連携強化を図り、子どもや保護者等へ生活習慣病とその予防に関する学習を進めて参ります。
6	【前期実践計画（案）P42.43】 災害に強いまちづくりの推進	消防団員が不足しているのは、若者が少なくなっているのが原因であると思う。別の地域では、火災や災害時に学生が活躍している実例もあり、宇美町でも人出不足解消の面から、高校生などの年齢層の活用の検討してはどうかと思います。	高校生の火災や災害時への対応については、安全面等から、難しい現状もありますが、大学生や専門学生に対し、加入促進を行うとともに、現在活躍している学生消防団員が将来卒業しても継続して在籍できるようサポートして参ります。また、小・中学校の児童生徒について、学校と連携しながら防災教育を進め、消防団の役割の重要性などについて、子どもの頃からの理解を深めて参ります。今後も、若年層の減少や多岐にわたる消防活動に対応するため「施策の方向性4 消防団活動の充実」に記載している機能別消防団の導入を進めて参ります。

	項目（公表）	意見要旨（公表）	町の考え方
7	【前期実践計画（案）P42.43】 災害に強いまちづくりの推進	いつも防災放送が聞き取りにくい。これはTwitterなどを活用すべきだと思うが、そのような体制が不十分だと感じる。防災メールやSNSの登録者も住民の5%程度（1500人）ではイザという時、十分でない。 災害時だけでなく日常的に住民にツールとして使われている体制がもしもの時に重要。複数ある宇美町のTwitterやLINEを統合運用することが望まれる。（「イベントのお知らせ」だけだとツマラナイ）	ご意見にもあるように、日常的に使われているツールが非常時にも役に立ちます。災害時に情報を早く正確に伝えるためには、どのような手段が適切なかを判断しながら、積極的にSNS等の活用を実施して参ります。 また、令和5年1月に導入した宇美町公式LINEの効果的な運用を進めて参ります。 ※「6-4持続可能な行財政運営 施策の方向性4自治体DXの推進」に反映予定です。
8	【前期実践計画（案）P50.51】 地域公共交通の充実	オンデマンドバス利用にあたり、我々高齢者が迷わず、うまく利用できるマニュアルの作成等、気軽に乗れる、慣れることが大事だと思います。	ご意見いただきましたとおり、オンデマンドバスの利用については、誰でも気軽に利用できる環境づくりが必要だと考えております。現在、地域で導入に向けた説明会を実施しており、導入後も、引き続き説明会の実施などを行い、高齢者の方にも使いやすい環境づくりを推進して参ります。
9	【前期実践計画（案）P50.51】 地域公共交通の充実	51ページのオンデマンドバスには非常に期待しているが、その成否は住民の、とりわけ高齢者のデジタル化と利用者増にかかっていると考える また近隣の、例えば乙金のショッパーズセンターなどまでの延長や、時間の延長（現役ドライバーの飲酒時の利用だの）が望まれる。前者については大野城も福祉バスを運用しているので《広域連携が可能》だと考える。また高齢者の利用が主になると考えられるが、高齢者のスマホ利用率がどれだけ向上するかも重要。アプリで予約をしたオンデマンドバス利用者の割合を令和8年度に85%目標としているが、実現可能か疑わしい。	オンデマンドバスは、地域公共交通の1つとして、鉄道や在来線バスなど主要な公共交通サービスを補完するものであり、駅やバス停ともつなぐことで、町民の移動の利便性の向上を目的としています。町全体の公共交通の課題を解決するにあたり、オンデマンドバスが果たす役割を検証し、他市町との広域連携の必要性を検討するべきと考えます。 また、ご意見と同様にオンデマンドバスの利用については、高齢者の方のデジタルの活用が重要だと考えております。オンデマンドバスのアプリ予約に限らず、高齢者の方もデジタルの活用ができるよう、これまでのスマホ教室に加え、高齢者の方がスマートフォンの使い方などについて気軽に相談できる体制を整え、町民のデジタル活用への取組を実施して参ります。 ※「6-4持続可能な行財政運営 施策の方向性4自治体DXの推進」に反映予定です。
10	【前期実践計画（案）P68.69】 6-1 まちの魅力の向上	自分も含め、ホームページや広報を見ない方は一定数いると思います。これまでの魅力の発信も大切だと思いますが、情報を得たい人が比較的簡単に得たい情報にたどりつく情報発信の仕組みが大切だと思います。	ご意見いただきましたとおり、広報やホームページに限らない情報発信が必要になっていると考えております。今後は宇美町公式LINEなどSNSを活用し、知りたい情報を簡単に知ることができる仕組みづくりに取組んで参ります。 ※「6-4持続可能な行財政運営 施策の方向性4自治体DXの推進」に反映予定です。
11	【前期実践計画（案）P68.69】 6-1 まちの魅力の向上	シティプロモーションの推進について。宇美町の隣の市で働いていますが、残念なことに隣の町の人たちですら、宇美町のことをよく知らない現状があります（遠くにあると思われる、志免や須恵など他の町と混同される、など）。「宇美町ここにあり」というところを、まずは県内の人々に知らしめていく必要があると思います。デジタル技術のみならず、新聞広告やパンフレット、車内広告等のアナログな手法も総動員して行うのがよいのではないのでしょうか。	ご意見いただきましたとおり、宇美町の魅力を町内外へアピールすることは、非常に重要だと考えております。デジタル技術を活用することはもちろんのことながら、ご提案いただいた手法など、さまざまな手法を活用しながら、シティプロモーションを推進して参ります。
12	【前期実践計画（案）P68.69】 6-1 まちの魅力の向上	歴史民俗資料館の活用について。宇美八幡宮の敷地内という絶好の場所にありながら、「とっつきにくい」感じがして、来館者も少ないように感じられます。宇美町の豊かな歴史を、町内外の多くの人々に伝えていくために、例えばネーミングを「うみ・むかし館（又は「れきし館）」にしたり、館内の様子が外からも見えるような建物にするなど、町民や参拝者にとって「親しみがもてる」「入りやすい」施設にした方がいいと思います。	来館者については、コロナ禍以前は、年間約10,000人の来場者がありました。ご意見のとおり、入館者を増やすために親しみが持てるネーミングは大切だと思いますが、まずは、文化財の展示だけでなく、文化財や歴史に興味がない方も来館したくなるような仕組みづくりを進めていきたいと思っております。

	項目（公表）	意見要旨（公表）	町の考え方
13	【前期実践計画（案）P 68.69】 6-1 まちの魅力の向上	新型コロナウイルスの影響で、制限されていた外国人旅行者への規制緩和が進んでいる。多くの外国人旅行者が、博多港から来日しているが、博多港から直接太宰府市に向っている現状である。宇美町の観光事業として、旅行会社と連携、アピールし、宇美町の歴史資源を売り込み、町内での買い物につなげ、四王寺山などを経由し、太宰府に向かう方法を検討してはどうかと思います。	宇美町には、応神天皇御生誕の伝説地であり、福岡県指定有形文化財「宇美八幡宮の安産信仰に関する伝説地」として指定されている宇美八幡宮や、国特別史跡で日本遺産「古代日本の『西の都』」の構成文化財となっている日本最古の古代山城「大野城跡」があります。「5-1地域経済の活性化 施策の方向性5 観光の振興と交流人口の拡大」に記載しておりますとおり、日本遺産「古代日本の『西の都』」構成自治体は、福岡県・宇美町・太宰府市・大野城市・春日市・筑紫野市・那珂川市・基山町であることから、太宰府市など近隣自治体と連携し、日本遺産の活用事業について検討を進め、外国人旅行者を含め、観光施設、飲食店、商業施設との周遊性を高めて参ります。
14	【前期実践計画（案）P 68.69】 6-1 まちの魅力の向上	宇美町を内外へアピールする活動の強化 ・宇美八幡宮の大楠のライトアップイベントの定期開催（年4回） ・第2第3の新しいキャンプ場の設置（キャンパーの集う町） ・空き家の活用・宇美町お試しお泊り用の住まい運用 ・シティセールス（ユーチューブチャンネル等SNS運用） ・中学生にアピール動画（ノンジャンルのおもしろ動画等）を作成してもらうイベント等を開催（子供動画クリエイターの発掘・育成） ・子供の自由なアイデアや流行りに敏感な感性を活かす ・絵や工作等とは違う「動画」というジャンルに果敢に挑戦 ・特化型企業の集中誘致を行う（これから伸びるジャンルに集中） ・ロボット産業企業・防災関連企業を宇美町へ集中させる取り組みをお願いします。	「施策の方向性2 シティプロモーションの推進」に記載しておりますとおり、宇美町の魅力を町内外に発信するためのシティプロモーションの体制を新たに構築します。ご意見も参考に検討させていただき、まちの魅力を町内外へ戦略的に発信するシティセールスに効果的な手法で取り組んで参ります。
15	【前期実践計画（案）P 70.71】 6-2 共働のまちづくりの推進	現在、地域で「高齢者のスマホ相互学習会」を細々と進めているが、高齢者自身その必要性を感じている割合は極めて少ない。スマホを持っていても昔のガラ携並みの使用しかしていない場合が多い。これについては先の生徒に「一人1台の端末」が実現されているので、世代間交流の場としても若い人が高齢者にスマホやタブレットの使い方を教えるような機会が作れたらと思います。	現在、自治会公民館等へのWi-Fi整備について補助を行っており、今後も「施策の方向性2 地域コミュニティ活動の支援」において、さらなる地域のデジタル化を支援して参ります。地域コミュニティ活性化のためにも、スマホ講座を活用して若者の参加を促しながら、地域での世代間交流等についても、支援を実施して参ります。
16	【前期実践計画（案）P 74.75】 6-4 持続可能な行財政運営	現在進められているマイナンバーカードの普及により、これまで以上に「プッシュ型行政」が可能になるので、是非その利点を住民に周知し、更なるデジタル化を推進していただきたい。	ご意見いただきましたとおり、今後更なるマイナンバーカードの普及を図るとともに、マイナンバーを活用した行政のデジタル化を推進して参ります。
17	【前期実践計画（案）全体】	地域ボランティアやサポーターが不足しているとのことだが、そうした登録のできる町内サイトを立ち上げては？例えば私の場合だと数年間の海外生活経験（留学）からの国際交流関連や、大学での専門教育の経験から、もしかすると役に立つ技能が提供できるかもしれないが、現状では「需要と供給の情報」が共有されていない。	ボランティアセンター等で、町民の方の特技を生かせるよう事業に応じた登録制度（宇美町学習支援者派遣事業、個人ボランティア登録）を実施しておりますが、制度の認知度が充分とは言えない現状です。町民の方が登録しやすく、学びたい町民の方が活用しやすい体制をつくり、広く情報発信することで町民の方の知識と経験を活かした取組を推進して参ります。